

人材育成——国際教養大学・中嶋嶺雄学長に聞く

グローバル化が進む中、国際的に活躍する人材が求められている。一方、地域の発展に貢献する人材も必要だ。日本の将来を担う若者が希望を持ち、意欲的に学ぶ環境をどう整えるかが

社会に課せられている。国際教養大学(秋田市)の中嶋嶺雄理事長・学長(松本市出身)に期待される人材とは、そのために必要な教育のあり方などを聞いた。(聞き手・宮沢美恵子)

環境整備は社会の責任

—現代の若者たちを見て何を感じるか。

「今の若者はだめだ。内向き指向だ」という意見があるが、私は必ずしもそのようには感じない。東日本大震災のボランティアに積極的に参加する若者もいる。青年海外協力隊に入ったたり、学ぶために留学に出ていたりする学生もいる。彼らは皆、感受性が豊かだ。内向きというなら、それは、日本の国全体が萎縮している結果で、それが、若者にも反映しているのだろう。若者が伸びる条件、環境を与えられないのは、社会全体の責任といえる。環境や教育の仕組みを整え、国際的に活躍する人材を育てたい。

—なぜ国際的に活躍する人材が必要か。

1991年にソ連崩壊があった。その2年前にはベルリンの壁崩壊があり東欧の民主化が進んだ。ソ連が崩壊した年を、グローバル化の起点と考えていいだろう。それによる東西冷戦の終結に加えて、IT(情報技術)革命はグローバル化の大きな要因となった。世界が国家・国境を越えて一体となるグローバル化が進んでいる。日本だけでは生きてはいかれない相互依存の世界だ。グローバル化にもいろいろマイナスの側面があり、全てがよいとは言えない

が、道を閉ざしていれば日本はますます立ち遅れる。—グローバル化時代にふさわしい人材とは。国際的に活躍する人は豊かな個性と、コミュニケーション能力を身に付けることが大切だ。世界とコミュニケーションをとるのは圧倒的に英語なので、英語による発信受信は欠かせない。それなのに日本の大学がグローバル化に対応しようという構えが全く不十分なのは残念だ。

教育の「育」を大切に

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。

—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。



—個性やコミュニケーション能力はどのように育てたらいいか。